

DOWAS NEWS

2012

Vol15 No.3



第 16 回海洋深層水利用学会全国大会・海洋深層水 2012 伊豆大島大会報告
清水 勝公（研究企画発表委員会委員長）…1

海洋深層水利用学会 2012 年度 理事会報告
海洋深層水利用学会事務局 …3



海洋深層水利用学会

第16回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2012 伊豆大島大会報告

清水勝公 (研究企画発表委員会 委員長)

「海洋深層水 2012 伊豆大島大会」が、昨年の平成24年11月8日、9日の2日間、東京都「大島町開発総合センター」におきまして、開催されましたことを報告します。

大会の概要につきましては、以下の通りです。

【主催】 海洋深層水利用学会

【後援】 文部科学省・水産庁・東京大学大学院新領域創成科学研究科

東京都大島支庁・東京都大島町

【実行委員会】

委員長 川島 理史 (東京都大島町 町長)

委員 白石 學 (社団法人マリノフォーラム 21)

藤田 大介 (東京海洋大学)

鈴木 秀和 (東京海洋大学)

池田 知司 (株式会社 環境総合テクノス)

吉川 昌之 (静岡県海洋深層水研究所)

開催場所対応委員

大内 一之 (東京大学)

多部田 茂 (東京大学)

佐藤 徹 (東京大学)

早稲田卓爾 (東京大学)

原田 浩 (東京都大島町)

野村 昌宏 (東京都大島町)

【開催状況】

開会挨拶

高橋 正征 (学会会長・東京大学名誉教授・高知大学名誉教授)

川島 理史 (実行委員長・東京都大島町長)

高本 賢司 (来賓祝辞・東京都大島支庁長)

研究発表

海洋・水質関連／生物・水産関連：7題

(座長：池田知司・株式会社環境総合テクノス)

農業・畜産関連：2題

(座長：白石 學・社団法人マリノフォーラム 21)

健康・医療関連：4題

(座長：津嶋貴弘・高知県海洋深層水研究所)

利活用システム関連他：3題

(座長：新村哲夫・富山県衛生研究所)

特別シンポジウム：深海利用研究の最前線

大内 一之 (東京大学大学院新領域創成科学研究科・特任研究員)

河野 健 (海洋研究開発機構・海洋環境変動研究プログラムディレクター)

早稲田卓爾 (東京大学大学院新領域創成科学研究科・准教授)

實原 定幸 (株式会社ゼネシス・代表取締役社長)

多部田 茂 (東京大学大学院新領域創成科学研究科・准教授)

佐藤 徹 (東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授)

和田 良太 (東京大学大学院新領域海洋技術環境学専攻)

【見学会】

三原山山頂見学及び泉津港深層水取水施設見学

【参加状況】

参加者：会員 43名 一般 10名 学生 4名

総員 57名

(韓国、台湾の海外からも参加を頂きました)

本大会における最近の研究発表の特徴として、研究テーマが海洋深層水の利活用に特化され、また、その内容も同一テーマを年々深掘りする方向の

研究が多く、一聴衆者として、海洋深層水を真に有用活用する商品等々の出現を期待できる研究内容となってきたと感じております。

一方、本大会では、参加者数が例年の約半数に留まり、また、発表題数も約 2/3 程度と少なかったものの、発表時間を 15 分/題（例年：10 分/題）としたことに加え、各発表に対して質疑時間を設けたことにより、参加者が研究発表内容をこれまで以上に理解することができ、両者にとって非常に密度の高い研究交流が図れました。このため、次年度以降も、本研究発表要領を反映すべきと考える次第です。

また、大会開催に当りましては、地元大島町の町長をはじめとします役場の皆様、また、東京大学の先生・院生の方々には特にご協力を得て運営することができましたことを、本紙面を通じてお礼を申す次第です。

最後に、会員の皆様方には、日頃、本学会活動にご理解とご協力を賜りまして、当大会の開催責任者として感謝申し上げます。次年度は「台湾」での開催となりますが、スケジュール調整の上、多数の御参集を頂きますようお願い申し上げます。



大会開催挨拶状況



研究発表状況

海洋深層水利用学会 2012 年度理事会報告（事務局）

【海洋深層水利用学会2012 年度第1 回理事会】

日時：2012 年 5 月 11 日(金)

場所：東京大学 弥生キャンパス 中島董一郎記念
ホール

議事：

1. 2012～2013 年度役員を選出
- | | |
|-----------------|--------|
| 会 長 | ：高橋理事 |
| 副 会 長 | ：深見理事 |
| 会計監査 | ：津嶋理事 |
| 研究発表企画委員会委員長 | ：清水理事 |
| 同副委員長 | ：大内理事 |
| ニュースレター編集委員会委員長 | ：池上理事 |
| ホームページ編集委員会委員長 | ：尾高理事 |
| 論文誌編集委員会委員長 | ：井関理事 |
| 利用促進委員会委員長 | ：大塚理事 |
| 同副委員長 | ：山田勝久氏 |
| 同 顧 問 | ：松里壽彦氏 |
| 事務局長 | ：大塚理事 |

2. 規約の改正について

名誉会員規定、学会賞規定について規約改正を検討する。

【海洋深層水利用学会2012 年度第2 回理事会】

発信日：2012 年 6 月 1 日(金)

議 題：入会に関するメール理事会

審議内容：2012 年 5 月度に申込みの入退会希望者
について理事会での承認を求めた

審議結果：異議なく了承され、本人に文書で回答し
た

【海洋深層水利用学会2012 年度第3 回理事会】

発信日：2012 年 6 月 3 日(火)

議 題：入会に関するメール理事会

審議内容：2012 年 6 月度に申込みの入退会希望者
について理事会での承認を求めた

審議結果：異議なく了承され、本人に文書で回答し
た

【海洋深層水利用学会2012 年度第4 回理事会】

発信日：2012 年 9 月 3 日(月)

議 題：入会に関するメール理事会

審議内容：2012 年 8 月度に申込みの入退会希望者
について理事会での承認を求めた

審議結果：異議なく了承され、本人に文書で回答し
た

【海洋深層水利用学会2012 年度第5 回理事会】

発信日：2012 年 10 月 2 日(火)

議 題：入会に関するメール理事会

審議内容：2012 年 9 月度に申込みの入退会希望者
について理事会での承認を求めた

審議結果：異議なく了承され、本人に文書で回答し
た

【海洋深層水利用学会2012 年度第6 回理事会】

日時：2012 年 11 月 8 日(木)

場所：大島町役場 3 階第 3 会議室

資料 1 論文誌編集委員会報告

資料 2 利用促進委員会報告

資料 3 2012 年度 第 16 回伊豆大島大会全国大会
の状況について

資料 4 2013 年度 第 17 回全国大会について

議事：

1. 論文誌編集委員会より

論文誌編集委員長・井関委員長より資料 1 にもと
づき説明があった。

■第 13 巻について

・第 1 号を 8 月に発行した。

・第 2 号は伊豆大島大会特集号として発行した。

・第3号は年度末に発行予定である。現在5編査読中であり、あと数編完成度の高い追加原稿を期待している。この全国大会での発表論文の投稿も期待しているので、関係者には呼びかけをお願いする。

■ホームページの投稿サンプルについて

・サンプル通りの投稿をしなくてはならないかとの問い合わせが多く、このサンプル掲載を削除してもよいと考えられる。

○長所：サンプル通りの原稿を印刷するとコストダウンになる。

●短所：投稿者にあまり好まれないスタイルのようであり、査読や手直しがしづらい。

よってホームページの掲載はこのままにしておき、今後もこのサンプル掲載を続けるか否か再度協議をしたい。

2. 利用促進委員会より

利用促進委員会・山田副委員長より資料2にもとづき説明があった。

■懇話会の開催について

- ・2012年11月7日に、利用促進委員会発足後初めての懇話会を開催した。
- ・高知県と北海道の産業利用について講演があり、とても参考になった。
- ・参加人数が少なかったため、今後は地元への周知をわかりやすく、オープンな形でおこない、目立つ広告なども工夫して人員増加を期待したい。

3. ホームページ編集委員会より

ホームページ編集委員会・大久保編集幹事より説明があった

■2012年度の実施状況について

- ・2012年度も例年通り、総会・全国大会のお知らせやアンケートの配信・メールニュースの配信・ニュースレターの掲載等を行っている。

・今後も会員周知などの要望があれば適宜対応する。

4. ニュースレター編集委員会より

ニュースレター編集委員会・池上委員長より説明があった。

■ニュースレターの発行状況について

- ・今年度はVol. 15No. 1を発行済み。No. 2の原稿も集まっており、12月に発行予定である。

5. 事務局より

大塚事務局長より説明があった。

■規定の改定について

- ・第1回理事会の決定事項である「名誉会員規定」「学会賞規定」については、年度末の理事会において提案する。

■会費のクレジット払いについて

- ・クレジット払いを導入してから、現在韓国籍会員1名・台湾籍会員3名の支払いを確認している。

6. 研究発表企画委員会より

研究発表企画委員会・清水委員長より資料3、資料4にもとづき説明があった。

■2012年度第16回伊豆大島大会について

- ・本大会は参加人数が伸び悩み、支出を抑える工夫をしているが、地元への還元として10名分の無料傍聴券を配布している。

■2013年度第17回台湾大会について

- ・2013年11月2日～4日・花蓮県内・台湾花蓮東華大学にて開催予定である。
- ・大会には一般の参加も認めて、参加者の増員を図る予定である。
- ・交通・宿泊については旅行業代理店等と調整して、旅行パッケージなどを検討している。
- ・日本語と中国語の発表には、日本語もしくは中国語の同時通訳をつけるが、英語での発表はそ

のまま、講演要旨は日本語と英語の併記で提出する。中国語への翻訳のために締め切りは7月中となる見込み。

- ・この大会は台湾国の「第2回深層海水産業国際交流シンポジウム」と合同開催となる
- ・参加費・懇親会費については例年通りの設定を予定している。
- ・初めての国際大会のため例年よりも準備作業を要すると思われるので、ボランティアなどを募って対応していきたい。

■ 2014年度第18回全国大会について

- ・佐賀大学を第一候補地として検討する。

以上